

施策の柱5 生物多様性を守り、活かす自然共生社会の構築

この項目は「生物多様性基本法」第13条第1項に規定する「生物多様性地域戦略」として位置付けます。

生物多様性とは

生物多様性とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことで、生物多様性条約*では全ての生き物の間に違いがあることと定義し、次の3つのレベルで多様性があるとされています。

生態系の多様性	森林、草原、河川、干潟など様々な生態系がそれぞれの地域に形成していること
種の多様性	様々な種類の動植物等が生息・生育していること
遺伝子の多様性	同じ種であっても、個体や個体群の間に遺伝子レベルでの違いがあること

私たちの暮らしは食料や水、木材、気候の安定など、多様な生物が関わり合う生態系から得ることのできる恵みによって支えられています。これらの恵みは「生態系サービス」と呼ばれ、次の4つに分類されます。

供給サービス	食料、水、木材、繊維、医薬品の原料等の資源の提供など
調整サービス	水質浄化、気候の調節、自然災害の防止や被害の軽減など
文化的サービス	自然景観の美しさ、精神・宗教的価値、レクリエーションの場の提供など
基盤サービス	光合成による酸素の提供、栄養塩の循環、土壌形成など

* 平成4年に採択され、日本は平成5年に締結。条約の目的には「生物多様性の保全」及び「その構成要素の持続可能な利用」等が掲げられており、生物多様性が直面する主要課題に対して方向性を示すとともに、国際協力の進展を促すなど一定の成果をあげている。



【目指す将来の姿】

- 生物多様性の重要性が広く認識され、多様な主体が保全活動に参画している。
- 生物多様性がもたらす豊かな恵みを享受し、持続的に活用している。
- 本県ならではの自然環境や景観などの環境資産を活かした取組みにより、地域の活性化が図られている。

【数値目標】

指標名	現状	年度	目標	年度
やまがた緑環境税を活用した森づくりへの参加人数	66,858人	R1	70,000人	R8*
狩猟免許所持者数	2,972人	R1	4,000人	R12
やまがた緑環境税を活用した森林整備面積（H29からの累計）	3,332ha	R1	11,600ha	R8*
山岳観光者数	789,400人	R1	1,000,000人	R12

* 「やまがた緑環境税評価・検証委員会」で決定した数値目標。本計画期間内に当該目標の見直しが行なわれた場合にはその都度反映する。

【現状】

（1）生物多様性の保全に関する現状

- ・ 本県は、全国第9位の面積を有し、県土の約7割を森林が占めています。また、一つの県のみを流域とする河川としては国内最長である最上川をはじめとする多くの河川、湖沼、湿地、田園、海浜等、豊かで変化に富んだ生態系があり、その中に、約2,400種の植物の生育、約5,000種を超える動物の生息が確認されています。また、同じ種でも生息・生育する地域や環境の違いなどにより、遺伝的な多様性を持つ個性的な個体群が存在しています。
- ・ 一方で、本県においても豊かな生物多様性は脅かされています。
県内で絶滅のおそれのある野生動植物の種数は、2013（平成25）から2018（平成30）年度にかけて改定した「山形県版レッドリスト」では、動物141種、植物500種、合計641種が絶滅危惧種に選定され、改訂前に比べて211種増加しています。

絶滅のおそれのある野生動植物の種の選定状況

分類群	カテゴリー*										合計選定種数	
	絶滅 (EX)	野生絶滅 (EW)	絶滅危惧種				準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	要注目		
			絶滅危惧I類 (CR+EN)		絶滅危惧II類 (VU)	計						
			絶滅危惧IA類 (CR)	絶滅危惧IB類 (EN)								
改訂後	動物編	10		33	41	67	141	172	86	7		416
	植物編	41	1	202	129	169	500	33	11			586
	計	51	1	235	170	236	641	205	97	7		1,002
改訂前	動物編	7		23	23	38	84	119	51	12	12	285
	植物編	39	1	154	86	106	346	38	38			462
	計	46	1	177	109	144	430	157	89	12	12	747

※絶滅のおそれの程度を分類したもの。環境省のカテゴリー区分に準拠している。

- ・ 生物多様性の損失や劣化を引き起こしている要因には、次の4つがあります。

ア 開発や過剰な採取等による種の絶滅や生態系の損失

- ・ 森林や農地などを造成した宅地や商業地等の開発、過剰な採取や捕獲、生育・生息地の環境悪化などにより、姿を消しつつある野生動植物があります。

イ 自然への働きかけの減少による生態系の劣化

- ・ 県内の里地里山・田園地域の多様な生態系は、農作物の生産、森林の手入れなど、人の手により形づくられてきましたが、産業構造の変化、人口減少や高齢化等により人の働きかけが減少する中で多様な生態系が失われてきています。
- ・ また、近年、本県では長らく姿を消していたイノシシとニホンジカが生息を回復し、イノシシによる農作物被害が急増しています。

ウ 外来種の侵入や持ち込み等による生態系や在来種の損失

- ・ 県内では、魚類のコクチバス、オオクチバス、ブルーギル、両生類のウシガエル、植物のオオキンケイギクやオオハンゴンソウ等が生息・生育域を拡大させています。また、最近になって哺乳類のアライグマが県内で生息していることが確認されるなど、国外や国内の他地域から持ち込まれた生き物の生息域拡大により、在来種や生態系への影響、更には農作物や生活環境への被害が懸念されています。

エ 地球温暖化等の気候変動による種の絶滅危機

- ・ 地球温暖化が多様な生態系や野生動植物の生息・生育に影響を与え、固有の生態系が失われていくことが懸念されます。標高の高い山岳地に生息・生育する多くの動植物は移動する場所がないため姿を消してしまうと考えられています。

(2) 自然環境との共生に関する現状

- ・ 本県の優れた自然の風景地の保護や利用の増進、生物の多様性の確保を目的に、10の自然公園(国立公園1(3地域)、国定公園3、県立自然公園6)が指定され、公園面積は県土面積の約17%を占めており、多くの人々が本県の豊かな自然環境とのふれあいを楽しんでいます。
- ・ 本県の豊かな自然環境を保全し、生息・生育する野生動植物の保護を図るため、自然環境保全地域(5箇所)、里山環境保全地域(4箇所)、鳥獣保護区(55箇所)を指定しています。
- ・ 県の独自課税である「やまがた緑環境税」を活用し、荒廃のおそれのある森林について、公益的な機能を回復・保全するための森林整備を実施しているほか、「やまがた木育」の推進、企業や地域の団体などによる県民参加の森林づくり活

動に対する支援を行っています。

- ・ 開発事業による重大な環境への影響を防止していくため、山形県環境影響評価条例を改正（平成30年4月）し、発電所事業を条例の対象に追加するとともに、条例の対象とする全事業について事業者が配慮書を作成することとしました。

<自然公園>

(単位：ha)

公園名・地区名		指定年月日	関係市町村	面積
国立公園 磐梯朝日	出羽三山・朝日地域	S25.9.5	西川町、朝日町、大江町、大蔵村、 小国町、鶴岡市、庄内町	54,213
	飯豊地域		飯豊町、小国町	10,093
	吾妻地域		米沢市	6,810
	計			71,116
国定公園	鳥海	S38.7.24	酒田市、遊佐町	13,553 (海域3,459)
	蔵王	S38.8.8	山形市、上山市	18,878
	栗駒	S43.7.22	新庄市、最上町、金山町	9,824
	計			42,255 (海域3,459)
県立自然公園	庄内海浜	S23.8.5	鶴岡市、酒田市	6,267
	御所山	S26.3.20	東根市、尾花沢市、最上町	13,515
	県南	S36.9.1	南陽市、高畠町	10,124
	加無山	S38.12.6	真室川町、金山町	8,502
	天童高原	S42.8.30	天童市	1,883
	最上川	S46.6.2	戸沢村、酒田市、庄内町	1,848
	計			42,139
合計				155,510 (海域3,459)

(注) 複数県にまたがる国立・国定公園については、山形県における面積を示しました。

<山形県自然環境保全地域>

(単位：ha)

	地域名	指定年月日	関係市町村	面積
1	今神山自然環境保全地域	S50.3.10	戸沢村	722
2	気比神社社叢自然環境保全地域	S50.3.10	鶴岡市	11
3	ヌルマタ沢・野川自然環境保全地域	S50.3.10	朝日町・長井市	4,016
4	大沢川源流部自然環境保全地域	S57.3.17	真室川町	350
5	沼ノ口湿原自然環境保全地域	S58.5.4	飯豊町	7
	合計			5,106

<山形県里山環境保全地域>

(単位：ha)

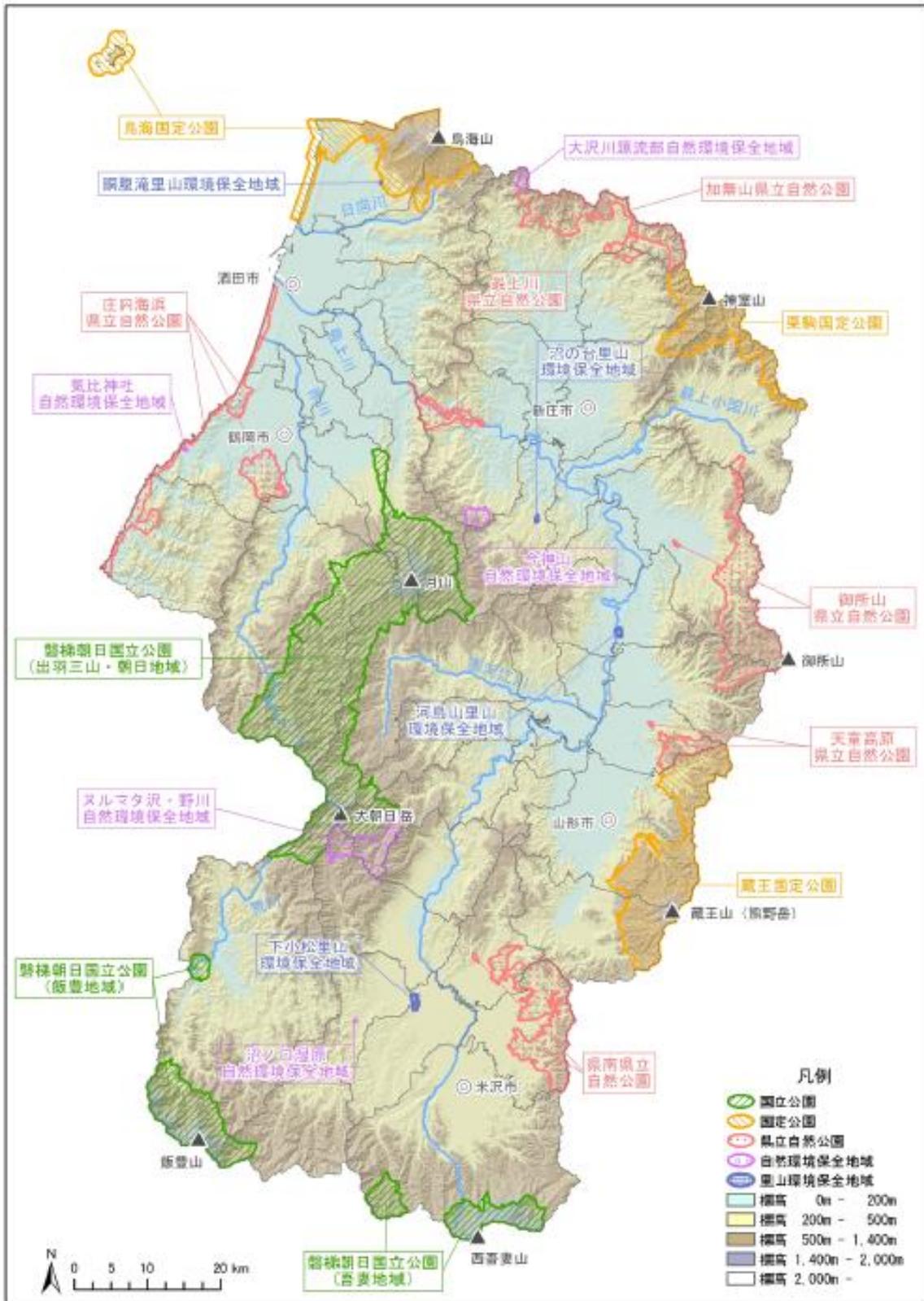
	地域名	指定年月日	関係市町村	面積
1	胴腹滝里山環境保全地域	H14.3.29	遊佐町	3
2	下小松里山環境保全地域	H15.3.28	川西町	156
3	河島山里山環境保全地域	H17.3.25	村山市	74
4	沼の台里山環境保全地域	H18.3.24	大蔵村	24
	合計			257

<鳥獣保護区>

(単位：ha)

	地域名	箇所数	面積 (ha)
1	国指定鳥獣保護区	3	30,253
2	県指定鳥獣保護区	52	80,533
	合計	55	110,806

自然公園、山形県自然環境保全地域、山形県里山環境保全地域区域図



(3) 環境資産の活用・継承に関する現状

- ・ 平成28年度に「やまがた百名山」を選定し、地元の宝である山の魅力の積極的な発信を行うとともに、山を守り維持管理していく地元の方々の活動を支援することで、交流人口の拡大と地域の活性化を図っています。
- ・ 平成27年度から、地域の人々に育まれてきた優れた湧水等を「里の名水・やまがた百選」として選定し、県内外に広く紹介しています。この取組みにより、水環境の保全と観光資源や地域づくりへの活用を推進しています。
- ・ 農村漁村の有する地域資源や豊かな自然を活用した観光交流や地域づくりを推進しています。

【課題】

(生物多様性の保全に関する課題)

- 減少している野生動植物については、その状況を把握しつつ、実効性ある保護対策や保護活動を促進していくことが必要です。また、生物多様性の損失を止めるためには、生息・生育地間の連携の確保など、生態系に視点をおいた対策が重要であり、生態系の連続性の確保に向けて、多様な主体との連携・協働が必要です。
- イノシシによる農作物被害が拡大していることから、被害防除対策や生息数管理等をより一層促進していく必要があります。
- 外来生物の問題について県民の理解を深め、防除活動に繋げていくことが重要です。
- 地球温暖化等の気候変動の影響による種の絶滅危機について、県民の理解を深め、県民一人ひとりが環境への負荷の少ない生活様式へ転換することなどが必要です。

(自然環境との共生に関する課題)

- 自然公園施設の老朽化や、一部にオーバークース（過剰利用）などの課題が生じているため、施設の計画的な再整備や適切な維持管理に取り組んでいくことが必要です。
- 管理放棄された荒廃のおそれのある森林が数多く存在し、森林の有する公益的機能を維持・増進していくことが課題となっており、適正な森林整備の実施や県民参加の森づくり活動を支援していくことが必要です。
- 内陸部から流れる河川ゴミは、河口部や庄内海浜地域に多く流れつき、沿岸の生態系や景観に悪影響を及ぼしており、海への環境負担の軽減が課題となっています。
- 環境への影響が懸念される大規模な再生可能エネルギー関連事業が増加しています。事業者は、環境保全の観点からより良い事業計画を作っていくことが必要です。県は、市町村の協力を得ながら、環境影響評価制度の周知を図ることが課題となっています。

(環境資産の活用・継承に関する課題)

- 山、滝、巨木、湧水など本県ならではの自然環境や、棚田、景観等の環境資産を活かし、新しい人の流れをつくり、地域に活力を引き込んでいくことが必要です。

【施策の展開方向】

生物多様性がもたらす4つの恵み（生態系サービス）

【くらしの基盤】 （供給サービス）	【安全・安心の基盤】 （調整サービス）	【豊かな文化の基盤】 （文化的サービス）	【生命の存立基盤】 （基盤サービス）
食料、水、木材、繊維、医薬品の原料等の資源の提供など	水質浄化、気候の調節、自然災害の防止や被害の軽減など	自然景観の美しさ、宗教的価値、レクリエーションの場の提供など	光合成による酸素の提供、栄養塩の循環、土壌形成など

将来像

- ✓ 生物多様性の重要性が広く認識され、多様な主体が保全活動に参画している。
- ✓ 生物多様性がもたらす豊かな恵みを楽しみ、持続的に活用している。
- ✓ 本県ならではの自然環境や景観などの環境資産を活かした取組みにより、地域の活性化が図られている。

施策の展開方向

山岳観光者数1,000千人

1 生物多様性の保全

- ◆ 多様な主体が自然とのふれあい活動等へ参画し、**生物多様性の理解**を促進
- ◆ 多様な主体が連携・協働し、**絶滅のおそれのある種や重要な生態系**を保全・再生
- ◆ **外来種対策**の推進
- ◆ **野生鳥獣の管理強化**
(ツキノガキ、コホガキ、イノシシ、コホガキ)
- ◆ 地域の実情に応じた集落単位での総合的な**鳥獣被害対策**の推進

2 自然環境との共生

- ◆ **山岳資源**や**自然公園**、**野外レクリエーション施設**等の保全・整備・維持管理及びその利活用を推進
- ◆ 計画的な造林や間伐等の森林整備など、**多様で健全な森林づくり**の推進
- ◆ 荒廃森林の復旧整備、**水土保全機能の低下した森林の整備**
- ◆ **県民参加の森づくり**等の推進
- ◆ 継続的な河川・海岸の保全、清掃美化活動の支援
- ◆ **環境影響評価**の適正な実施

3 環境資産の活用・継承

- ◆ 「やまがた百名山」に関する更なる情報発信
- ◆ 「『山の日』全国大会」の開催による、**山岳観光者数の増加**
- ◆ 登山道等の**予防保全型の修繕**や**避難小屋の新設**
- ◆ 豊かな自然・景観を活かした**地域活性化**の推進
- ◆ 農山漁村地域の保全と活用による、**農業の有する多面的機能**の維持・発揮

(1) 生物多様性の保全

ア 生物多様性の理解の促進

- ・ 自然とのふれあい体験活動、森林や生き物の保全活動への参加等を促し、県民の生物多様性の理解を促進します。
- ・ 自然環境総合モニタリング調査等の実施を通じ、生態系の状況、希少野生生物の生息・生育環境の適正な保全、外来生物の生息・生育状況の把握に努めます。

イ 絶滅のおそれのある種や重要な生態系の保全と再生

- ・ 過剰な捕獲や採取、生息・生育地域の環境悪化等により個体数が激減し絶滅のおそれのある野生生物の種のリストであるレッドリストの周知・啓発に努めます。
- ・ 多様な主体が連携し、絶滅のおそれのある種や重要な生態系の保護対策の促進や保護規制措置を講じます。
- ・ 生物多様性の確保や自然環境の体系的な保全に適切な配慮がなされるよう、環境影響評価手続を適切に進めます。

ウ 外来種対策の推進

- ・ 外来種問題の普及啓発に努めるとともに、特に生態系に影響の大きい外来種について、現状を把握のうえ、初期防除等に取り組みます。

エ 野生鳥獣の適切な管理と鳥獣被害対策の推進

- ・ ツキノワグマ、ニホンザル、イノシシ及びニホンジカについて、それぞれの県管理計画に基づき、野生鳥獣の適正な管理を推進し、農林水産被害の軽減、人身被害の防止を図ります。
- ・ 鳥獣の管理体制を維持・強化するため、捕獲の主要な担い手である猟友会員等の狩猟者の確保・育成に向けた取組みを支援します。
- ・ 侵入防止柵設置等の被害防除対策、放棄果実の除去や緩衝帯の整備等の生息環境管理及び捕獲対策を組み合わせた、地域の実情に応じた集落単位での総合的な鳥獣被害対策を推進します。

(2) 自然環境との共生

ア 自然公園の整備と利用促進

- ・ 山岳資源や自然公園、野外レクリエーション施設等について、地元市町村等と連携し、保全・整備・維持管理、及びその利活用を一層推進します。

イ 森林の有する公益的な機能の維持・増進及び持続的な発揮

- ・ 計画的な造林や間伐等の森林整備、立地条件に応じた針広混交林化や複層林化等による、多様で健全な森林づくりを推進します。
- ・ 荒廃森林の復旧整備、水土保持機能の低下した森林の整備等を計画的に推進します。
- ・ 4つの県民の森や県立自然博物館等での体験活動等を通じた森林環境教育、企業や地域の団体など多様な主体による森づくり活動への支援、緑化行事の推進により、県民参加の森づくりを推進します。

ウ 河川ごみ対策等、海への環境負荷の軽減

- ・ 河川愛護活動団体などによる継続的な河川・海岸の環境保全、清掃美化活動を支援します。
- ・ 漂着ごみの現状把握と回収処理を推進するとともに、陸域部におけるごみ発生抑制対策を進めます。

エ 環境影響評価の推進

- ・ 大規模な事業が環境や文化の保全に配慮したものとなるようにするため、環境影響評価手続きを円滑に進め、適切な環境保全が図られるよう、事業者に促します。また、県は、市町村の協力を得ながら、環境影響評価制度の周知を図ります。

(3) 環境資産の活用・継承

ア 環境資産を活かした地域活性化の取組みの促進

- ・ 「やまがた百名山」の魅力向上を図るとともに、山岳情報ポータルサイトやS

NS、マスメディア等を活用し、登山情報等の発信を強化し、山岳観光者数の増加を図ります。

- ・ 「第6回『山の日』全国大会」を通して、本県の山岳資源の魅力を全国に発信し、県外の登山者への認知度を向上させます。
- ・ 山岳資源の持続的活用とともにオーバーユースを是正するため、登山道や県有避難小屋の予防保全型修繕や、登山者の一極集中の分散を図るため新設の避難小屋の整備を推進します。
- ・ 貴重な自然資源であり、観光資源でもある温泉資源を保護するため、温泉の掘削や温泉利用施設が適正なものとなるよう指導します。
- ・ 地域資源の一つである県内の名水や滝の保全と地域活性化への活用の取組みを推進します。
- ・ 景観条例に基づく眺望景観資産の指定や、『『やまがた景観物語』おすすめビューポイント』の選定により、良好な景観の形成に対する普及啓発や景観を活かした周遊情報の発信を行います。
- ・ 「未来に伝える山形の宝」登録制度を推進し、県民が県内の天然記念物や景観等を保存・活用する取組みを支援します。

イ 農山漁村地域の保全と活用

- ・ 農業の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域の共同活動や、中山間地域等における農業生産活動、自然環境の保全に資する農業生産活動（環境保全型農業）や荒廃農地を再生し有効に活用するための取組みなどを支援します。
- ・ 木質バイオマス資源の持続的な活用に向けた取組みを支援します。
- ・ 地域資源を活用した体験によるグリーン・ツーリズムを推進し、農山漁村地域の豊かな自然とのふれあい等を通じて自然環境への理解の促進を図ります。

【各主体が配慮すべき事項・期待される役割の例】

県民	<ul style="list-style-type: none">・ 「やまがた百名山」への登山や登山道整備に参加して山に親しんだり、森づくり活動に参加したりする。・ 自然公園施設（登山道、避難小屋等）を利用するときは、オーバーユースとならないようマナーを守って適切に利用する。・ 希少な野生動植物などの捕獲や採取等を行わない。また、その生息・生育環境の保全活動に参加する。・ 地域固有の特性を有する生物種の交雑や喪失を防止するため、他地域から動植物を持ち込まない。・ 地域本来の自然環境に悪影響を与えるオオクチバスやアライグマ等の
----	---

	<p>侵略的な外来生物を野外に放出しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本県ならではの自然環境、河川等の美化活動、山形らしい景観を活かした地域づくりや保全活動へ参加する。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系に配慮しながら、事業所敷地内等の緑化や植栽を推進するとともに、地域の緑化運動や河川等の清掃美化活動への参加に協力する。 ・ 「やまがた絆の森」の仕組みを活用した、企業、森林所有者、県等の協定に基づく森づくり活動を行う。 ・ 自然環境保全の重要性を認識し、絶滅が危惧される野生動植物などの生息・生育環境の適正な保全や、生態系を壊さないよう事業活動における環境配慮に努める。 ・ 山形の自然、歴史・文化等と調和した景観の形成に努める。
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の保全活動の機会提供や自然環境保全の取組みへの支援を行う。 ・ 住民の自然環境を活かした地域づくりなどへの支援を行うとともに、環境に配慮したまちづくりに取り組む。 ・ 森林の有する公益的な機能の維持及び持続的な発揮のため、森林環境譲与税を活用した森林整備等による更なる森林・林業施策を展開する。 ・ 本県ならではの自然環境や景観を保全し、環境資産の効果的な利用を図る。

【コラム】やまがた百名山 ～ かけがえのない 100 の山 ～



「山の日」（8月11日）が「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」として平成 28 年に国民の祝日として制定されたことを契機に、地域の宝である山の宝に光を当て、山の魅力を認識し愛着を高め、その魅力を発信し、山岳観光の振興につなげることを目的に、県民や市町村、山形県の山に愛着を持つ皆さんから山形県内の魅力的な山を広く募集し、「やまがた百名山」が選定されました。



〈月山での登山風景〉

「やまがた百名山」には、日本百名山に数えられる本格登山向けの名峰から、気軽に散策やトレッキングを楽しめる低山、地元で愛されているものこれまであまり知られていなかった里山まで、多彩な魅力と歴史的背景、暮らしと関わりの深い百座がそろっています。

登山者が安全に山歩きを楽しめるのも、登山道の下刈りや案内看板等の整備があってこそ。「やまがた百名山」では里山を中心に、地元の方々が主体となった登山環境の整備が行われており、県ではこうした皆さんの活動を支援してきました。「私たちの地元の山の素晴らしさを知って欲しい」という思いで行われている登山環境の整備は、多くの登山者を呼び、地元の方々との交流や地域づくりのきっかけにもなっています。